

令和5年度入学試験問題（一般選抜：追試験）

小 論 文

中等教育教員養成課程

注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること。
2. 解答紙には、かならず受験番号を記入すること。

〔問〕 つぎの文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「教師は授業で勝負する」という言葉がある。わが国の教育界に伝わるこの至言を、どれだけの教師たちが実感を伴って理解しているだろうか。

授業を「ハウツー」で語ろうとする風潮が未だに根強い。多忙な日常の中で、授業づくりに労力を割けない学校の現状もあろう。残念ながら、学校教育における授業の相対的地位が低下し、授業という「実践」が効率的にこなしていくべき「作業」へと^{おとし} 貶められているという現場の実態があるのではなかろうか。

今あらためて、授業こそが学校生活の中核をなす活動であることを確認したい。教師にとっても、子どもたちにとっても、学校で過ごす多くの時間が授業に費やされているのは事実であり、子どもたちの学習と成長を保障するために授業の充実が最優先の課題であることは論をまたない。しかも、授業を通して一人ひとりの子どもたちが価値ある学びの体験を積み重ねていけるかどうかは、一人ひとりの教師にゆだねられているのである。

「教師は授業で勝負する」という言葉は、授業を教育的に意味のあるライブの場として実現することに対して最大限の労力を注ごうとする「プロの心意気」を伝えようとしているのではなかろうか。よりよい授業を創り出そうと努力する姿こそ、教師という仕事の本質なのだとあらためて思う。

思わず惹き込まれてしまうような「魅力的な授業」に参観者として出あうことがある。現在進行形で展開する学びをめぐるドラマに直面することで、いつの間にか授業の時空間に巻き込まれてしまっている感覚とでもいえようか。本気で学びに熱中している子どもたちとともに、心地よい充実感を「教室の空気」を通して体感することができるのである。

仕事柄、小学校から高校に至るまでさまざまな教科の授業を参観する機会に恵まれているのだが、このような「魅力的な授業」が全国に遍在していることを知り、日本の学校と教師の底力を心強く感じているところである。そこでわかってきたのは、「魅力的な授業」をする教師にはどうやら「共通点」がありそうだということである。少なくとも以下の三点が挙げられよう。(中略)

第一に、「魅力的な授業」を実現する教師は、授業に対するユニークな「こだわり」

を持っている。それは単なる個人的な思い込みとか、勝手な考え方に基づいているということではない。妥当な教育観、子ども観、学習観、教科観に裏打ちされたその教師ならではの授業に対するビジョンを持っているのだ。(中略)

第二に、「魅力的な授業」を実現する教師には、「よく考えようとする姿勢」がある。

事前によりよく考えて授業に臨み、よりよく考えながら授業を展開し、授業終了後にもその授業を省察することでよりよく考えようとする。だから決して安易な授業にならないのである。(中略)

「魅力的な授業」を実現する教師の特徴として第三に挙げられるのは「子どもの学びと成長と一緒に喜ぶメンタリティ」である。

「魅力的な授業」には、子どもたちの学びにつきあい、その果実を共に喜ぶ教師の表情豊かな姿がある。子どもたちが体験する学びの充実感や達成感に、教師が共感的なのである。

出典：鹿毛雅治著 『授業という営み 子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る』
教育出版、2019年、pp.91 - 101.

(設問の都合により本文の一部を改変している)

(問1) 筆者は問題文では省略している別の箇所で、下線部でいう「考える」には少なくとも「見通す」「振り返る」の二つの意味があると述べている。このことについて「見通す」「振り返る」の語句を用いて、120字以内で自分の考えを述べなさい。

(問2) 課題文の内容とあなたの経験を踏まえながら、あなたが行いたい授業を300字以上400字以内で述べなさい。